

7-21 兵庫県南部地震にともなう六甲臨時稠密地震観測（序報）

Temporary Seismic Observation around Mt Rokko with Dense Array stations in 1995 (Preliminary Report)

平成7年兵庫県南部地震緊急地殻活動調査グループ

（取り纏め：名古屋大学理学部）

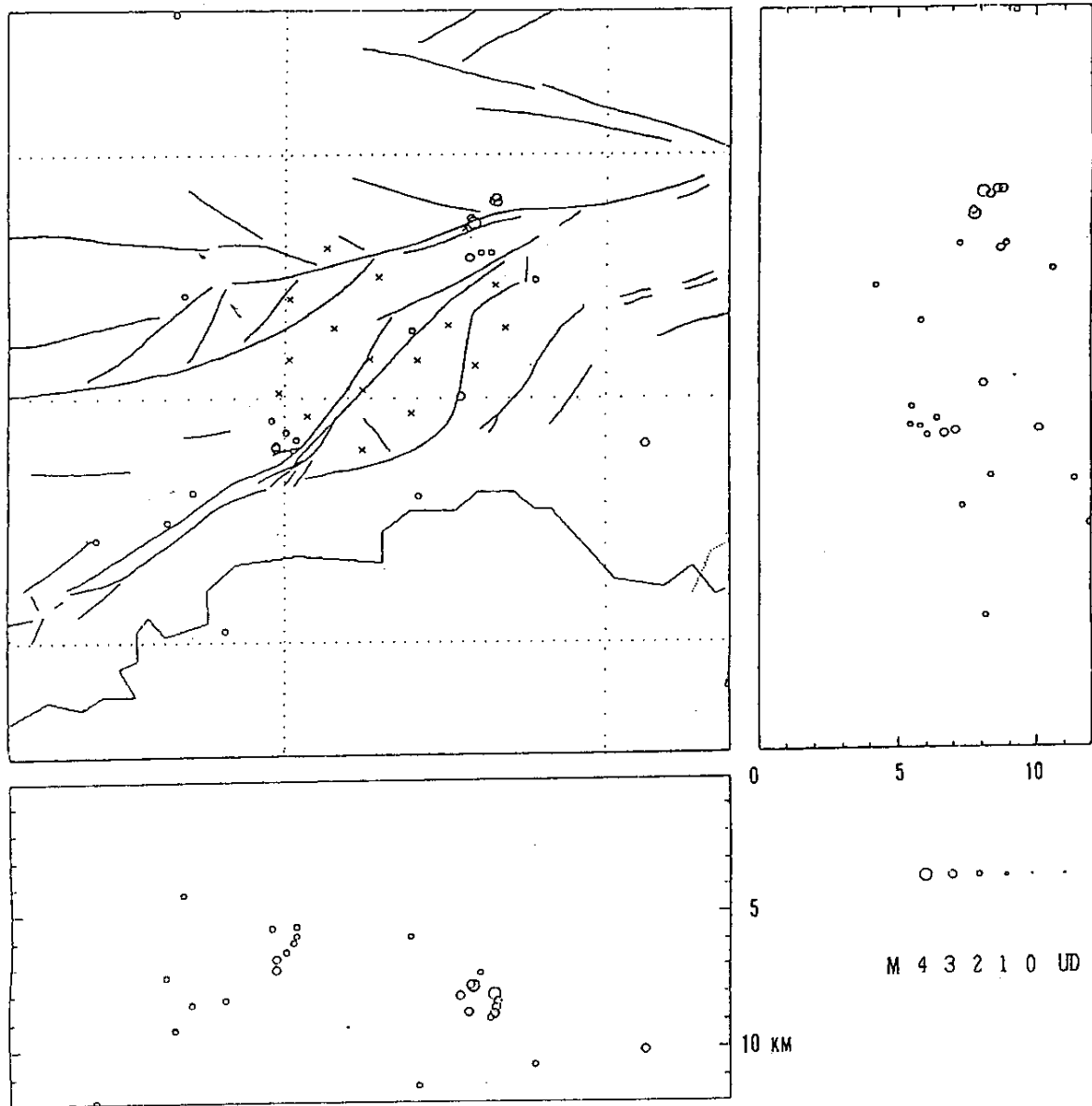
Japanese university group of urgent joint
observation for the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake
(organized by Nagoya Univ.)

1995年2月10日より4月12日までの約2ヶ月間、兵庫県南部地震震源域の東北端部に位置する六甲山周辺で総計70点の3成分地震計からなる稠密地震観測網を展開し、臨時精密地震観測を行った。結果の一部を暫定報告する。

この観測網は、16点のトリガー受信点の周囲に2～5観測点からなる小アレーを配置し、無線でのトリガー指令により地震波形を一斉に収録する稠密多点地震観測システムで、兵庫県南部地震の地震断層末端部の直上に展開することによって高精度で余震活動を捉えることができ、以下のような成果が期待される。

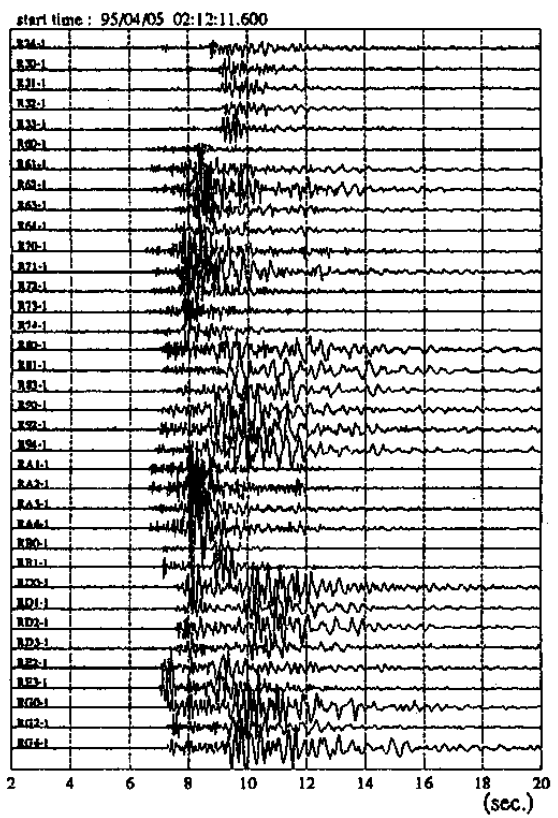
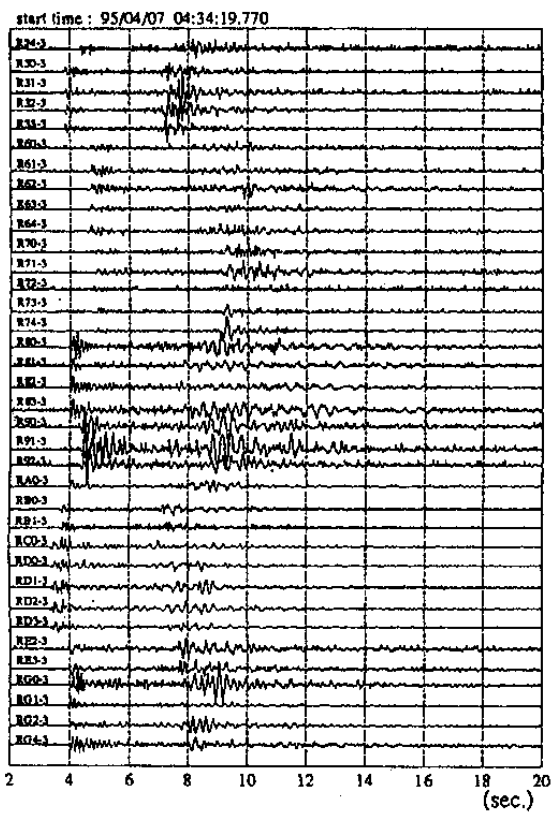
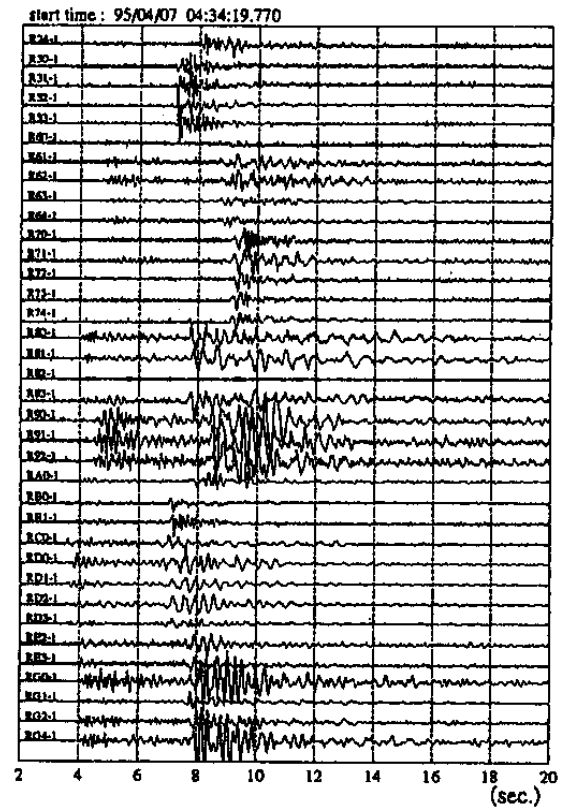
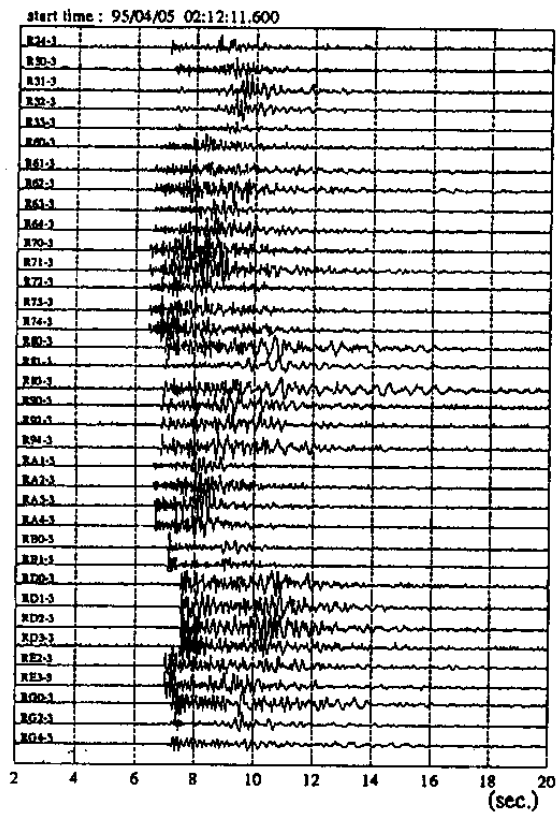
- 1) 地震断層直上で精密な震源分布を決定することが可能となり、破壊域における活動の細部構造を掌握できる。暫定震源は活断層分布との関連性を示唆している。
- 2) 反射波と推定される後続相の解析で深部構造の情報が得られる。例示した波形でも、P波の後や東西動波形ではS波の後に相が認められている。
- 3) 活断層近傍でトラップト波を検出し、破砕帯の構造の情報を得る。

など。観測結果は現在解析中である。



第1図 観測点の配置 (×がそれぞれ2~5点の小アレイを構成し、総計70観測点) ならびに暫定決定震源の分布 (1995年3月17日~4月10日分)。

Fig.1 Distribution of seismic array stations (plus) and the hypocenters from March 17 through April 10 in 1995. plus marks indicate small arrays with 2 to 5 stations.



第 2 図 観測地震波形例 (左 : 上下動成分, 右 : 東西動成分)

Fig.2 Examples of seismograms observed in this network. (left : vertical component right : E-W component).